



## ネットワーク設定

---

- [Web ベースの設定ユーティリティ \(1 ページ\)](#)
- [基本的なセットアップ \(2 ページ\)](#)
- [詳細設定 \(12 ページ\)](#)
- [アプリケーション \(15 ページ\)](#)

### Web ベースの設定ユーティリティ

電話機のシステム管理者は、ユーザが電話機の統計を表示したり、一部またはすべてのパラメータを変更することを許可できます。このセクションでは、電話機の Web ユーザ インターフェイスで変更できる電話機の機能について説明します。

### 電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス

サービスプロバイダーが設定ユーティリティへのアクセスを無効にしている場合は、続行する前にサービスプロバイダーに問い合わせてください。

#### 手順

---

- ステップ 1** コンピュータが電話機と通信できることを確認します。使用中の VPN はありません。
  - ステップ 2** Web ブラウザを起動します。
  - ステップ 3** Web ブラウザのアドレス バーに、電話機の IP アドレスを入力します。  
たとえば、`http://10.64.84.147/admin` となります。
  - ステップ 4** プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
-

## ATA への Web アクセスの許可

ATA のパラメータを表示するには、設定プロファイルを有効にします。いずれかのパラメータを変更するには、設定プロファイルを変更できる必要があります。システム管理者が ATA の Web ユーザ インターフェイスを表示または書き込み可能にするために、ATA オプションを無効にしている可能性があります。

詳細については、『*CISCO ATA 191 および 192 マルチプラットフォームファームウェアプロビジョニングガイド*』を参照してください。

### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。[電話機 ウェブインターフェイスへのアクセス \(1 ページ\)](#) を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** [システム (System) ] をクリックします。
  - ステップ 2** [システム設定 (System Configuration) ] セクションで、[Webサーバの有効化 (Enable Web Server) ] を [はい (Yes) ] に設定します。
  - ステップ 3** 設定プロファイルを更新するには、電話機の Web ユーザ インターフェイスでフィールドを変更した後に、[すべての変更を送信 (Submit All Changes) ] をクリックします。  
電話機は再起動し、変更が適用されます。
  - ステップ 4** 現在のセッション中 (または最後に [すべての変更を送信 (Submit All Changes) ] をクリックした後) に行ったすべての変更をクリアするには、[すべての変更を元に戻す (Undo All Changes) ] をクリックします。値が前の設定に戻ります。
- 

## 基本的なセットアップ

ネットワークセットアップ>基本的なセットアップページから、インターネット接続、ローカルネットワーク設定 (ATA 192 のみ)、時刻の設定を構成します。

## ネットワークサービス (ATA 192 のみ)

ネットワークセットアップ>基本セットアップにある>ネットワークサービスページから、ATA 192 の動作モードを設定します。

変更を行った後で、**送信** をクリックして設定を保存するか、**キャンセル** をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

ATA は、次のモードのいずれかで動作するように設定できます。

- **NAT:** ネットワークアドレス変換 (NATA): プライベートネットワーク上の複数のデバイスが、パブリックで、ルーティング可能な IP アドレスを共有することを可能にします。NAT と IP サービス経由の音声を共存させるには、ATA または他のネットワークデバイスに何らかの形式の NAT トラバーサルが必要です。ATA を WAN ポート上の 1 つのネットワークと LAN ポート上の別のネットワークに接続する場合は、このオプションを使用します。このオプションはデフォルトで選択されており、ほとんどの導入に適しています。
- **ブリッジ:** デバイスとして他のルータに対して ATA が動作している場合は、ブリッジモードが使用されます。ATA を使用して LAN ポートにネットワークをブリッジする場合 (また、接続されたデバイスが 10.0.0x 範囲に存在する場合)、このオプションを選択します。

## 基本設定

ネットワークセットアップ>基本設定ページから、基本的なネットワーク設定を設定します。

表 1: 基本設定

フィールド	説明
ドメイン名	ISP によって指定されている場合は、ドメイン名を指定します。それ以外の場合はこのフィールドを空のままにします。
ホスト名 (Host Name)	ATA の名前。デフォルトはモデル番号です。ISP は、使用するホスト名を指定できます。
スタックモード	ネットワークのスタックモードを選択します。設定可能なモードには、IPv4 のみ、Pv6 のみ、またはデュアルの 3 つがあります。
シグナリングの設定	SIP パケット設定 (IPv4 または IPv6) を選択します。
メディア設定	RTP パケット設定 (IPv4 または IPv6 のいずれか) を選択します。

## IPv4 設定

ネットワークセットアップ>基本セットアップにある>IPv4 設定ページから、IPv4 接続をセットアップします。

表の説明に従って、設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 2: [インターネット接続タイプ]

フィールド	説明
[接続タイプ (Connection Type) ]	<p>ISP が必要とするインターネットアドレスメソッドを指定します。デフォルト設定: 自動コンフィギュレーション - DHCP</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>自動設定: DHCP:</b> ISP が動的に IP アドレスを提供する場合は、この設定を使用します。このページには、これ以外の設定は必要ありません。</li> <li>• <b>静的 IP:</b> ISP が静的 IP アドレスを割り当てられている場合にこの設定を使用します。表示されるフィールドに値を指定します。</li> <li>• <b>PPPoE (DSL サービス):</b> 一部の DSL ベースの ISP では、PPPoE (Point-to-point プロトコル) を使用してインターネットに接続しています。DSL 回線を介してインターネットに接続している場合は、ISP に PPPoE を使用しているかどうかを確認します。表示されるフィールドに値を指定します。</li> </ul>
スタティック IP 設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>インターネット IP アドレスとサブネットマスク:</b> サービスプロバイダーによってアカウントに割り当てられた IP アドレスとサブネットマスクを入力します。このアドレスは、インターネット上の外部ユーザに表示されます。</li> <li>• <b>デフォルトゲートウェイ:</b> ISP によって提供されたゲートウェイの IP アドレスを入力します。</li> </ul> <p>必要に応じて、MTU とオプションの設定を調整することができます。</p>
PPPoE の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>ユーザ名とパスワード:</b> PPPoE 接続を介して ISP ネットワークにログインする際に使用するユーザ名とパスワードを入力します。</li> <li>• <b>サービス名:</b> ISP から提供された場合は、サービス名を入力します。</li> <li>• <b>オンデマンドでの接続:</b> 指定された非アクティブ状態(最大アイドル時間)後にインターネット接続を切断するように ATA を設定できます。インターネット接続がタイムアウトになった場合、この機能により、再度インターネットにアクセスしようとしたときに、ATA が再接続を再確立することも可能になります。このオプションを選択した場合は、最大アイドル時間も設定します。</li> <li>• <b>キープアライブ:</b> このオプションをオンにすると、接続がアイドル状態の場合でも、インターネットへの接続が無期限に維持されます。このオプションを選択した場合は、ATA によるインターネット接続が確認される間隔であるリダイヤル期間も設定します。デフォルト期間は 30 秒です。</li> </ul> <p>必要に応じて、MTU とオプションの設定を調整することができます。</p>

フィールド	説明
[最大伝送ユニット (MTU) ]	最大転送ユニット (MTU) 設定では、ネットワーク伝送で許可されている最大のプロトコルデータユニット (バイト単位) を指定します。一般に、MTU が大きいほど効率性は向上します。ただし、サイズの大きいパケットは、他のトラフィックの遅延を引き起こす可能性があり、破損する可能性が高くなります。通常は、ATA が適切な MTU を選択できるように、デフォルト設定のままにします。MTU を指定するには、[手動] を選択して、バイト数を入力します。

表 3: オプションの設定

フィールド	説明
[DNSサーバ順序 (DNS Server Order) ]	DNS サーバを選択するための推奨される方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>DHCP手動:</b> ネットワークサーバからの DNS サーバの設定が優先され、DNS フィールドのエントリはバックアップとしてのみ使用されます。</li> <li>• <b>手動 DHCP:</b> DNS フィールドのエントリが優先され、ネットワークサーバからの DNS サーバの設定がバックアップとして使用されます。</li> <li>• <b>手動: DNS</b> フィールドのエントリは、DNS サーバを選択するために使用されます。</li> </ul>
プライマリ DNS (Primary DNS)	プライマリ DNS を IPv4 用に設定します。
セカンダリ DNS (Secondary DNS)	IPv4 のセカンダリ DNS を設定します。

## IPv6 設定

ネットワークセットアップ>基本セットアップにある>IPv6設定ページから、IPv6 接続をセットアップします。

表の説明に従って、設定を入力します。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 4: IPv6 設定

フィールド	説明
[インターネット接続タイプ]	<p>ISP が必要とするインターネットアドレスメソッドを指定します。デフォルト設定: 自動コンフィギュレーション - DHCP</p> <p>自動設定: DHCP: ISP が動的に IP アドレスを提供する場合は、この設定を使用します。このページには、これ以外の設定は必要ありません。</p> <p>静的 IP: ISP が静的 IP アドレスを割り当てられている場合にこの設定を使用します。次のフィールドに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• インターネットの IPv6 アドレスおよびプレフィックス長: サービスプロバイダーによってアカウントに割り当てられた IPv6 アドレスとプレフィックス長を入力します。パブリックにはこのアドレスを表示します。</li> <li>• デフォルトゲートウェイ: ISP によって提供されたゲートウェイ IPv6 アドレスを入力します。</li> </ul> <p>PPPoE (DSL サービス): 一部の DSL ベースの ISP では、PPPoE (Point-to-point プロトコル) を使用してインターネットに接続しています。DSL 回線を介してインターネットに接続している場合は、ISP に PPPoE を使用しているかどうかを確認します。次のフィールドに入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザ名とパスワード: PPPoE 接続を介して ISP ネットワークにログインする際に使用するユーザ名とパスワードを入力します。</li> <li>• サービス名: ISP から提供された場合は、サービス名を入力します。</li> <li>• オンデマンドでの接続: 指定された非アクティブ状態 (最大アイドル時間) 後にインターネット接続を切断するように ATA を設定できます。インターネット接続がタイムアウトになっている場合は、この機能によって、インターネットに再度アクセスしようとしたときに自動的に ATA を再接続することができます。このオプションを選択した場合は、最大アイドル時間も設定します。</li> <li>• キープアライブ: このオプションをオンにすると、接続がアイドル状態の場合でも、インターネットへの接続が無期限に維持されます。このオプションを選択した場合は、ATA によるインターネット接続が確認される間隔であるリダイヤル期間も設定します。デフォルト期間は 30 秒です。</li> </ul>

表 5: オプションの設定

フィールド	説明
[DNSサーバ順序 (DNS Server Order) ]	DNS サーバを選択するための推奨される方法を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DHCP 手動: ネットワークサーバからの DNS サーバの設定が優先され、DNS フィールドのエントリはバックアップとしてのみ使用されます。</li> <li>• 手動 DHCP: DNS フィールドのエントリが優先され、ネットワークサーバからの DNS サーバの設定がバックアップとして使用されます。</li> <li>• 手動: DNS フィールドのエントリは、DNS サーバを選択するために使用されます。</li> </ul>
自動設定の許可	自動設定を許可する場合は有効にします。
プライマリ DNS (Primary DNS)	プライマリ DNS を IPv6 用に設定します。
セカンダリ DNS (Secondary DNS)	IPv6 のセカンダリ DNS を設定します。

## IPv4 LAN 設定 (ATA 192 のみ)

ネットワークセットアップ > 基本セットアップにある > IPv4 LAN 設定 ページから、ローカルネットワークの IP アドレスとサブネットマスクを設定します。組み込み DHCP サーバの設定も設定します (ATA 192 のみ)。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

### ルータ IP

ローカルネットワークのローカル IP アドレスとサブネット マスクを入力します。デフォルト設定には、255.255.255.0 のサブネットマスクと 192.168.15.1 が設定されています。

### DHCP サーバの設定

フィールド	説明
[DHCPサーバ (DHCP Server)]	ATA では、組み込み DHCP サーバを使用して、接続されたデバイスに IP アドレスを動的に割り当てることができます。有効をクリックして DHCP サーバを有効にするか、無効をクリックしてこの機能を無効にします。 デフォルト設定: 有効

フィールド	説明
IP 予約	<p>[DHCP 予約の表示] ボタンをクリックすると、DHCP クライアント一覧を表示および管理できます。[DHCP 予約の非表示] ボタンをクリックして、一覧を非表示にします。一覧が表示されたら、次の作業を実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 現在の DHCP クライアントの静的 IP アドレスを予約するには、<b>DHCP テーブルからクライアントを選択</b>一覧で、クライアントのチェックボックスをオンにします。<b>クライアントを追加</b>をクリックします。選択されたクライアントは、すでに予約されているクライアント一覧に追加されます。これらのクライアントには、変更されない静的な IP アドレスが割り当てられています。</li> <li>• DHCP テーブル一覧から[クライアントの選択]にないクライアントを追加するには、<b>クライアント名</b>の入力ボックスにクライアントの名前を入力します。<b>IP アドレスの割り当て</b>ボックスに、このクライアントの IP アドレスを入力します。MAC アドレスを次の形式で入力してください: 00:00:00:00:00:00 [追加 (Add) ] をクリックします。</li> <li>• <b>すでに予約されているクライアント</b>の一覧からクライアントを削除するには、クライアントのチェックボックスをオンにします。[削除] をクリックします。</li> </ul>
デフォルトゲートウェイ (Default Gateway)	<p>DHCP クライアントが使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレスを入力します。</p> <p>デフォルト設定: 192.168.15.1 (イーサネット (LAN) インターフェイスの IP アドレス)</p>
開始 IP アドレス (Starting IP Address)	<p>DHCP サーバによって動的に割り当てられたアドレスの範囲の最初のアドレスを入力します。</p> <p>デフォルト設定: 192.168.15.100</p>
最大 DHCP ユーザ数	<p>DHCP サーバから DHCP アドレスを動的に受信または「リース」することが可能なデバイスの最大数を入力します。</p> <p>デフォルト設定 : 50</p> <p><b>重要:</b> 通常、ATA は、Web ブラウザやメール表示などのビジネス関連のタスクのために最大 5 台の接続されたコンピューターをサポートできます。ATA は、音楽、ビデオ、ゲーム、またはその他のネットワークトラフィック集中型タスクのストリーミングをサポートするようには設計されていません。</p>



フィールド	説明
クライアントのリース時間	<p>動的に割り当てられたIPアドレスを使用できる分数、または「リース済み」を入力します。この時間が経過すると、クライアントデバイスはDHCPリース更新をリクエストするようになります。0は1日を表し、9999は期限切れにならないことを示します。</p> <p>デフォルト設定：0</p>
オプション 66	<p>このオプションをリクエストするホストに、プロビジョニングサーバのアドレス情報を提供します。サーバ情報は、次の3つの方法のいずれかで定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>なし</b>: ATAは独自のTFTPサーバを使用してソースプロビジョニングファイルを使用するため、自身のローカルIPアドレスをクライアントに返します。</li> <li>• <b>リモートTFTPサーバ</b>: ATAは、この方法を使用して設定され、サーバ情報をWANインターフェイス上のオプション66を使用して受信しました。クライアントの要求にตอบสนองして、リモートTFTPサーバ情報を提供します。</li> <li>• <b>手動TFTPサーバ</b>: 設定サーバアドレスを手動で設定できます。このオプションは、IPアドレスまたは完全修飾ホスト名のいずれかを提供するために使用されます。また、ATAは、特定のクライアントの要件を満たすために、プロトコル、パス、ファイル名などの完全なURLを受け入れて提供します。</li> </ul> <p>デフォルト設定: なし</p>
TFTPサーバ (TFTP Server)	<p>オプション66に[手動TFTPサーバ]を選択した場合は、TFTPサーバのIPアドレス、ホスト名、またはURLを入力します。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>
オプション 67	<p>このオプションをリクエストするホストに設定またはブートストラップファイル名を提供します。このオプションは、オプション66と一緒に使用すると、クライアントが適切なTFTPリクエストをファイルに対して実行できるようになります。</p> <p>デフォルト設定：空白</p>
オプション 159	<p>このオプションを要求するクライアントへの設定URLを提供します。オプション159 URLでは、DNSを使用できないクライアントにIPアドレスを使用して、プロトコルとパスの情報を定義します。例:  <a href="https://10.1.1.1:888/configs/bootstrap.cfg">https://10.1.1.1:888/configs/bootstrap.cfg</a></p> <p>デフォルト設定：空白</p>

フィールド	説明
オプション 160	このオプションを要求するクライアントへの設定 URL を提供します。オプション 160 URL では、DNS を使用できるクライアントに完全修飾ドメイン名を使用してプロトコルとパスの情報を定義します。例: <code>https://myconfigs.cisco.com:888/configs/bootstrap.cfg</code> デフォルト設定：空白
DNS プロキシ	この設定が有効になっている場合、DNS プロキシは現在のパブリックネットワーク DNS サーバに DNS リクエストを中継します。また、ネットワーク上のクライアントデバイスへの DNS リゾルバーとして応答します。 <b>有効</b> をクリックしてこの機能を有効にするか、 <b>無効</b> をクリックして無効化します。DNS プロキシが無効になっている場合、DHCP クライアントは、静的 DNS サーバを使用するか、またはインターネット (WAN) インターフェイス用に指定されたサーバを使用して DNS サーバ情報を提示します。

## IPv6 LAN 設定 (ATA 192 のみ)

ネットワークセットアップ > 基本セットアップ > **IPv6 LAN 設定** ページから、IPv6 LAN 接続をセットアップします。

表の説明に従って、設定を入力します。変更を行った後で、**送信**をクリックして設定を保存するか、**キャンセル**をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 6: [インターネット接続タイプ]

フィールド	説明
[DHCPサーバ(DHCP Server)]	<b>有効</b> をクリックして DHCP サーバを有効にするか、 <b>無効</b> をクリックしてこの機能を無効にします。 デフォルト設定: 有効
アドレス割り当てタイプ	アドレス割り当てタイプ: SLAAC/DHCPv6 を選択します。
DHCPv6 委任	DHCPv6 委任をサポートするかどうかを選択します。[はい]の場合、ユーザは <b>IPv6 アドレスプレフィックス</b> を設定できません。
IPv6 アドレスプレフィックス	IPv6 アドレスプレフィックスを IPv6 LAN インターフェイスに設定すると、プレフィックス長は 64 に固定されます。
IPv6 アドレス長	IPv6 アドレスプレフィックス長を IPv6 LAN インターフェイスに設定します。 範囲:1-112
IPv6 の静的 DNS	IPv6 の静的 DNS を設定します。

フィールド	説明
LAN IPv6 アドレス	LAN IPv6 アドレス情報を表示します。

## 時刻設定

ネットワークセットアップ > 基本セットアップにある > 時間設定 ページから、ATA のシステム時間を設定します。デフォルトでは、システム時刻は Network Time Protocol (NTP) サーバを使用して自動的に設定されます。システム時間を手動で設定することもできます。さらに、このページを使用して、タイムゾーンを指定したり、夏時間の調整を有効にしたり、関連する設定を変更したりすることができます。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

### ユーザマニュアル

システムを手動で設定する場合は、ユーザマニュアルをクリックして、日付と時刻を入力します。

表 7: 時刻設定

フィールド	説明
日付	4 桁の年、月、日の順で日付を入力します。
時刻	時間を次の順序で入力します。時間(1~24)、分、秒です。

### タイムゾーン

タイムサーバを使用して時刻の設定を確立するには、[タイムゾーン]を選択します。次に、このセクションの他のフィールドに情報を入力/指定します。

表 8: タイムゾーン設定

フィールド	説明
タイムゾーン	ATA が使用されているサイトのタイムゾーンを選択します。デフォルト設定: (GMT-08:00) 太平洋標準時 (米国 & カナダ)。
自動的に夏時間の調整をする	サマータイムが有効になっている時間を自動的に調整したい場合は、このチェックボックスをオンにします。保存しない場合は、ボックスをオフにします。

フィールド	説明
タイムサーバアドレス。	ATA のデフォルトの Network Time Protocol (NTP) サーバを使用するには、ドロップダウンリストから [自動] を選択します。NTP サーバを指定する場合は、[手動] を選択し、NTP サーバアドレスを入力します。  デフォルト設定: 自動
再同期タイマー	再同期タイマー間隔の値を入力します(秒単位)。このタイマーは、ATA が NTP サーバと再同期する頻度を制御します。  デフォルト設定: 3600 秒
リブート後の自動リカバー	このオプションを選択すると、システムのリブート後に、ATA を自動的にタイムサーバに再接続することができます。  デフォルト設定: 無効

## 詳細設定

ネットワークセットアップ>詳細設定ページから、ポートフロー制御、MACアドレスのクローン作成、VPN パススルー、VLAN などの機能を設定します。

### ポート設定 (ATA 192 のみ)

ネットワークセットアップ> 詳細設定にある > ポート設定ページから、イーサネット (LAN) ポートの属性を設定します。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 9: ポート設定

フィールド	説明
フロー制御	フロー制御は、ポート上のデータの送信を一時的に停止するメカニズムです。たとえば、デバイスは、ネットワークの他の部分よりも高速にデータを転送することができます。このようなネットワークの要素は、指定された時間の間、送信者の送信を停止します。  <b>有効</b> をクリックしてこの機能を選択するか、 <b>無効</b> を選択してこの機能を無効化します。  デフォルト設定: Enabled

フィールド	説明
スピードデュプレックス	デュプレックスモードを選択します。自動ネゴシエーション、10 ハーフ、10 フル、100 ハーフと 100 フルに選択できます。Cisco では、[自動ネゴシエーション] を選択して、トラフィックに適したモードを自動的に選択することを推奨しています。その他の設定には注意して使用してください。ネットワークデバイスに対して適切でない設定を選択すると、問題が発生する可能性があります。  デフォルト設定: 自動ネゴシエーション

## MAC アドレス クローン

MAC アドレスは、識別目的で、ハードウェアの固有の部分に割り当てられた 12 桁のコードです。ISP の中には、インターネットにアクセスするために MAC アドレスを登録する必要がある ISP もあります。以前に別の MAC アドレスでアカウントを登録している場合は、その MAC アドレスを ATA に割り当てると便利な場合があります。**ネットワークセットアップ > 詳細設定にある > MAC アドレスクローン** ページから、すでにサービスプロバイダーに登録されている MAC アドレスを割り当てることができます。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 10: MAC アドレス クローン設定

フィールド	説明
MAC クローン	[有効] をクリックすると、MAC アドレスのクローン作成が有効になります。  デフォルト設定: 無効。
[MAC アドレス (MAC Address) ]	ATA に割り当てる MAC アドレスを入力します。使用しているコンピュータの MAC アドレスが以前に ISP アカウントに登録していたアドレスである場合は、 <b>PC の MAC をクローン</b> をクリックします。 <b>Mac</b> アドレスフィールドには、使用しているコンピュータの Mac アドレスが表示されます。  デフォルト設定: ATA の現在の Mac アドレス

## VPN パススルー (ATA 192 のみ)

IPsec、PPTP、および L2TP プロトコルの VPN パススルーを設定するには、**ネットワークセットアップ > 詳細設定にある > VPN パススルー** ページから行います。この機能は、独立した IPsec トンネルを必要とする ATA の背後にデバイスが存在する場合に使用します。たとえば、デバイスは VPN トンネルを使用して WAN 上の別のルータに接続する必要があります。

デフォルトでは、IPsec、PPTP、およびL2TPに対してVPNパススルーが有効になっています。変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 11: VPNパススルー設定

フィールド	説明
IPsec パススルー	インターネットプロトコルセキュリティ (IPsec) は、IP 層でパケットの安全な交換を実装するために使用される一連のプロトコルです。 <b>有効</b> をクリックしてこの機能を有効にするか、 <b>無効</b> をクリックして無効化します。 デフォルト設定：Enabled
PPTP パススルー	Point-to-Point Tunneling Protocol (PPTP) を使用すると、IP ネットワークを介して Point-to-Point Protocol (PPP) をトンネリングできます。PPTP パススルーを無効にするには、[無効] を選択します。 デフォルト設定：Enabled
L2TP パススルー	レイヤー2 トンネリングプロトコルは、レイヤー2 レベルのインターネットを使用して Point-to-Point セッションを有効化するために使用される方法です。 <b>有効</b> をクリックしてこの機能を有効にするか、 <b>無効</b> をクリックして無効化します。 デフォルト設定：Enabled

## VLAN

ネットワークセットアップ > 詳細設定にある > VLAN ページから、ネットワークに VLAN ID を割り当てます。たとえば、コールコントロールシステムは、特定のボイス VLAN ID を必要とする場合があります。

変更を行った後で、送信をクリックして設定を保存するか、キャンセルをクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 12: VLAN 設定

フィールド	説明
VLAN の有効化 (Enable VLAN)	[有効] をクリックしてこの機能を有効にするか、[無効] をクリックして無効化します。 デフォルト設定：無効
VLAN ID	VLAN ID は、1~4094 の任意の数字です。VLAN を有効にすると、デフォルトの設定は1になります。

## CDP および LLDP

デバイス検出プロトコルを使用すると、直接接続されたデバイスが相互に関する情報を検出できます。これらのプロトコルを有効にして、ネットワーク管理システムが ATA とエンドポイントについて知ることができるようにすることもできます。**ネットワークセットアップ>詳細設定にある > CDP & LLDP** ページから、Cisco Discovery Protocol (CDP) と Link Layer Discovery Protocol (LLDP) の設定を指定します。有効にすると、ATA はマルチキャストアドレスにメッセージを送信し、そのプロトコルを使用して他のデバイスから送信されたメッセージをリッスンします。

変更を行った後で、**送信** をクリックして設定を保存するか、**キャンセル** をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

## アプリケーション

**ネットワークセットアップ>アプリケーション** ページから、ボイスサービスおよびパブリックアクセス用にホストするすべてのサーバをサポートします。

## Quality of Service (QoS) (ATA 192 のみ)

**ネットワーク設定 > アプリケーション** にある **> QoS** ページから、上流の帯域幅を広帯域サービスに合わせて設定します。この機能は、デフォルトで有効になっており、ネットワークトラフィックが多いときに音声優先順位付けすることを支援します。

変更を行った後で、**送信** をクリックして設定を保存するか、**キャンセル** をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 13: QoS の設定

フィールド	説明
QoS ポリシー	QoS 設定を常に有効にするには常に <b>オン</b> をクリックするか、音声トラフィックがある場合にのみ有効にする場合は <b>電話機の使用時にオン</b> をクリックします。 デフォルト設定: 電話機の使用時にオン
アップストリーム帯域幅	インターネットのサービスプロバイダーによって指定されている、利用可能な上流の帯域幅の最大値を入力します。 デフォルト設定: 100000 kbps 重要: サービスプロバイダーから受信した上流の帯域幅を上書きしないでください。この値を利用可能なサービス帯域幅より高く設定すると、サービスプロバイダーのネットワークでトラフィックが任意に削除される可能性があります。

## ポートフォワーディング (ATA 192 のみ)

外部デバイスから特定のポートにアクセスする必要がある場合は、**ネットワークセットアップ > アプリケーション**にある **ポートフォワーディング** ページからアクセスします。

### ポートフォワーディングのリスト

ポートフォワーディングルールを追加するには、[エントリの追加] をクリックします。ポートフォワーディングルールを編集するには、リストでポート転送ルールを選択してから [鉛筆アイコン] をクリックします。ポートフォワーディングルールを削除するには、[削除] アイコンをクリックします。

表 14: ポートフォワーディングの設定

フィールド	説明
番号 (Number)	ポートフォワーディングルールの識別番号。
タイプ (Type)	ルールのタイプ: 単一ポートフォワーディングまたはポート範囲の転送。
ステータス	ルールのステータス: 有効化または無効化
アプリケーション	このルールを使用して、ネットワークリソースにアクセスするアプリケーション。

### ポートフォワーディングの詳細

[詳細] を表示するには、**ポートフォワーディング** リスト内のエント리를クリックします。

表 15: ポート設定

フィールド	説明
External Port	外部クライアントがこの接続を設定するために使用するポート。
内部ポート	内部サーバにトラフィックを転送するときに ATA が使用するポート。
プロトコル (Protocol)	使用されるプロトコルは、TCP または UDP です。
[IP アドレス (IP Address) ]	このルールによってアクセスされる内部サーバの IP アドレス。

## 主導でポートフォワーディング (ATA 192 のみ) を追加

このページを使用して、アプリケーションのポートフォワーディングの設定を入力します。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信** をクリックして設定を保存するか、**キャンセル** をクリックして、設定を保存したページを再表示します。



表 16: ポートフォワーディングの設定

フィールド	説明
ポートフォワーディングタイプ	<p>ポート転送のタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>単一ポートフォワーディング:</b> LAN 内のターゲットサーバの同じポートまたは代替ポートに対して、指定されたポートへのトラフィックを転送します。</li> <li>• <b>ポート範囲転送:</b> LAN 内のターゲットサーバの同じポートにトラフィックを転送します。必要なポートまたは範囲については、インターネットアプリケーションのマニュアルを参照してください。</li> </ul>
アプリケーション名	<p>ポートを1つ転送する場合は、ドロップダウンリストから一般的なアプリケーション (Telnet や DNS など) を選択します。</p> <p>リストにないアプリケーションを追加するには、<b>新しい名前の追加</b>を選択し、<b>名前を入力</b>フィールドに名前を入力します。</p>
名前を入力します	<p>ポート範囲転送を選択した場合、または単一のポートフォワーディングのアプリケーション名一覧で<b>新しい名前の追加</b>を選択した場合は、アプリケーションを識別する名前を入力します。</p>
外部ポート、内部ポート	<p>ポートを1つ転送する場合は、使用するポートを指定します。簡略化のために、内部ポート番号と外部ポート番号は同じであることが多くあります。異なる外部ポート番号を使用して、異なるサーバで使用されている同一のアプリケーションタイプのトラフィックや非標準ポートを使用したプライバシーを区別することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>外部ポート:</b> 単一ポートフォワーディングの場合は、外部クライアントが内部サーバとの接続を設定するために使用するポート番号を入力します。</li> <li>• <b>内部ポート:</b> シングルポートフォワーディングの場合は、内部サーバにトラフィックを転送するときに ATA が使用するポート番号を入力します。</li> </ul> <p>[アプリケーション名]一覧から単一ポートフォワーディング用の標準アプリケーションを選択すると、適切なエントリが自動的に表示されます。</p>
開始 - 終了ポート	<p>ポート範囲転送の場合は、使用するポートの範囲を指定します。有効値は 1 ~ 65535 です。</p>
プロトコル (Protocol)	<p>転送可能なプロトコル (TCP、UDP、または TCP、UDP) を選択します。</p>

フィールド	説明
[IP アドレス (IP Address) ]	<p>転送されたトラフィックを受信するローカルサーバの IP アドレスを入力します。</p> <p>トラフィックを正しく転送するには、ローカルサーバが静的 IP アドレスで設定されているか、または DHCP を使用して予約済みの IP アドレスを割り当てられている必要があります。IP アドレスを予約するには、[インターフェイスセットアップ]&gt;[LAN]&gt;[DHCP サーバ] ページをから行います。</p>
[有効 (Enabled) ]	<p>このポート転送ルールを有効にするには、チェックボックスをオンにし、無効にするにはボックスをオフにします。</p> <p>デフォルト設定：無効</p>

## DMZ (ATA 192 のみ)

特定目的のサービスに対してローカルデバイスをインターネットに公開する場合は、**ネットワークセットアップ>アプリケーションにある >DMZ** ページから行います。

指定されたネットワークデバイスは、DHCP クライアント機能を無効にしておく必要があります。また、指定された IP アドレスでアクセス可能であることを確認するために、予約済み IP アドレスを設定する必要もあります。



- (注) Demilitarized Zone (DMZ; 緩衝地帯) は、ポート範囲フォワーディングと似ています。この両方の機能により、インターネットトラフィックは、プライベートネットワーク上のリソースにアクセスできます。ただし、ポート範囲転送は、アプリケーション用に指定されたポートを開くだけであるため、安全性が高くなります。DMZ ホストは、1 台のデバイスのすべてのポートを開いて、それをインターネットに公開します。

説明のとおり設定を入力します。変更を行った後で、**送信** をクリックして設定を保存するか、**キャンセル** をクリックして、設定を保存したページを再表示します。

表 17: DMZ 設定

フィールド	説明
ステータス	<p><b>有効</b> をクリックしてこの機能を有効にするか、<b>無効</b> をクリックして無効化します。</p> <p>デフォルト設定：無効</p>
プライベート IP	DMZ を経由してアクセス可能なデバイスのローカル IP アドレスを指定します。